

# 古代の あさくらを 駆け抜けた 卑弥呼 神功皇后 齐明天皇 ゆかりの地を巡る

古代の「あさくら」には、三人の女帝の足跡が多く残されています。魏志倭人伝に登場する邪馬台国を治めていた卑弥呼。仲哀天皇とともに九州へ渡り、朝鮮出兵の前に、夜須地方を治めていた豪族の羽白熊鷲と闘った神功皇后。滅亡に瀕している朝鮮半島の百済を救援するために朝倉の地に都を移した齐明天皇。日本の国の黎明期の逸話にふれ、古代の「あさくら」を駆け抜けた三人の女帝に思いを馳せてみては。

**砥上神社** MAP A-1  
〈筑前町〉  
神功皇后が新羅と闘おうとして諸国の軍をこの地に召集し、中宮(屯営)としたことから中つ宿といわれ、兵器を研がせたことから「砥上」の地名となっています。



**大己貴神社**〈筑前町〉 MAP B-2  
仲哀天皇9年(紀元前200年)創建との伝承を持ち、日本最古級の神社と言われています。日本書紀では、神功皇后が朝鮮出兵に際して軍を集めようとしたが集まらず、この神社に「太刀」と「矛」を奉納したら兵が集まったという伝承が残っています。



**栗田八幡宮**〈筑前町〉 MAP B-2  
祭神は神功皇后、八幡大神、住吉大神で、神功皇后がこの地を通過したのでこの地に建てられたとされています。筑前国続風土記(1709年貝原益軒作)には「檀の宮(香椎)から松峽宮に遷られたとのことだが、この地のことだろうか」と記載されています。



**平塚川添遺跡公園**〈朝倉市〉 MAP C-2  
弥生時代中期から古墳時代初頭にかけて営まれた大規模な低地性の多環濠濠集落で、「邪馬台国」と同時期とされています。国指定史跡。



**仙道古墳**〈筑前町〉 MAP B-2  
目配山からのびる丘陵部に築かれた装飾古墳。6世紀後半に築造されたとされ、直径約49mの円墳の周囲には二重の溝が巡らされています。「あさくら」には数多くの古墳が点在し、古くから文明が栄えた場所の一つと考えられます。

- モデルルート**
- 第一日目
    - 砥上神社
    - 栗田八幡宮
    - 【昼食】
    - 大己貴神社
    - 仙道古墳
    - 平塚川添遺跡公園
    - 【宿泊】
  - 第二日目
    - 惠蘇八幡宮界隈散策
    - 惠蘇八幡宮・御陵山
    - 月見の石・「秋の田」歌碑
    - 菱野の三連水車
    - 【昼食】
    - 橘広庭宮の碑界隈散策
    - 橘広庭宮の碑
    - 朝闇神社

